

協会だより

災害復旧技術専門家を山形県西川町に派遣

公益社団法人 全国防災協会

(公社)全国防災協会では、市町村をはじめとする被災公共土木施設の早期復旧支援に向け、平成15年11月に「災害復旧技術専門家派遣制度」を創設しました。災害復旧技術専門家は、国や都道府県の災害復旧業務に長年携わり、制度を熟知し災害復旧事業に関する高度な技術的知見を有する経験豊富な技術者（防災担当の本庁課長級及び事務所長経験者で構成）で、北海道から沖縄までの全国に、379名が登録されています。

平成26年5月には、国土交通省水管理・国土保全局防災課より「災害復旧・改良復旧事業の技術的助言などの支援（試行）について」の通達が出され、制度を充実してきています。これまでも多くの地方公共団体等の要請に応じ、多くの災害復旧技術専門家を派遣し、迅速かつ確かな災害復旧事業の促進に寄与しています。

今回、通達に基づき山形県西川町に3名の災害復旧技術専門家を派遣し、復旧工法などについて技術的助言を行いました。

派遣概要

1. 令和2年7月豪雨（梅雨前線による大雨7月26日～29日）による西川町の状況

梅雨前線が東北地方に停滞し、前線上の低気圧が28日に日本海から東北地方に接近しました。前線や低気圧に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだため、大気の状態が不安定となり28日を中心に大雨となりました。

西川町では、7月26日夜から29日朝にかけて断続的に雨が降り続けました。特に、28日未明から町内各地で大雨に見舞われ、28日昼過ぎから町内各地で土砂崩れや道路の路面冠水、道路や農用地への土砂流入などの災害が発生しました。

西川町の累加雨量は、海味が191mm、志津が285mm、大井沢が235mmを観測し、特に28日の日降水量は大

井沢で215mmとなり観測史上1位を更新する記録的な大雨となりました。

2. 派遣された災害復旧技術専門家（敬称略）

派遣日：令和2年9月8日（火）

派遣者：佐藤 清（西松建設(株)北日本支社）
山科 勝嗣（(一社)東北地域づくり協会
山形支所）
吉田 郁夫（共和コンクリート工業(株)
山形支店）

3. 活動報告（支援・助言内容）

町道 高旭東浦線（たかひひがしうらせん）、

普通河川 海味川（かいしゅうがわ）

- ・河道が埋塞したことにより、路面を水が走り土砂や流木等で埋塞している、河川の埋塞だけでなく、道路も車馬の交通に影響があるので、道路の埋塞も申請し、被災原因と復旧工法等が一連となるよう検討すること。
 - ・路肩も道路構造物であり、路肩崩壊箇所は次期出水で交通に影響があるため申請を検討すること。
- 町道 下堀鶴部線（したほりつるべせん）
- ・補強土壁工で工法選定はよいと考えるが、地質・地盤の状況を確認のうえ工法比較をした方がよい。
 - ・山側の崩壊斜面も法面保護工も選定フローに従い検討すること。
 - ・被災前は、杉等の立木が防護柵の効用を果たしていたと考えられるので、ガードレールを検討すること。
- 普通河川宝沢川（ほうざわがわ）
- ・帯工下流の洗掘された区間は、玉石等で保護されていたが流出したため、護床工を検討すること。
 - ・根継工等で応急工事した区間等は、根入れが確保されていないため護床ブロックでの補強を検討すること。

4. 活動状況写真



技術専門家

西川町長への報告

西川町



宝沢川 大字間沢地内 (8月上旬)



普通河川宝沢川 根継



普通河川宝沢川 帯工



町道 下堀鶴部線



町道高旭東浦線 普通河川海味川 (8月上旬)



町道高旭東浦線 普通河川海味川

5. コメント

(1) 派遣技術専門家



山形県西川町派遣の感想

佐藤 清 (西松建設(株)北日本支社)

7年目にして初めての地元です。張り切って出掛けたものの、猛暑には閉口しました。36度を超すなかで、ヘルメット、ベストの重装備は無理があります。それでもマスコミの取材中は、このスタイルで通しましたが、マスコミの皆さんが帰った後は、直ぐに重装備を解きました。

今回で4回目の派遣になりますが、改めて思ったことは、派遣要請する自治体は、災害復旧制度に対する理解、技術的知識が高いように思えます。本来は、自治体の技術者不足や経験不足を支援することが趣旨ではありますが、必ずしも、そういう実情だけの要請ではないように思えてきました。推察するに、災害復旧制度に精通しているからこそ専門家派遣に結び付き、かつ現地において専門家と意見のキャッチボールすることが、自らの知見を高めることにつながる、そんな思いを強くしました。

専門家の活動要請に対する動機として、前述の初歩的支援は当然として、通常行っている、講習会講師を現地で個別に行っていると考えれば、当然のことかもしれません。

そのようなことで、今回の派遣活動は、テンポよく進めることができ、自分にとっても楽しく有意義な1日でした。それにしても暑かったあ。



西川町専門家派遣を振り返って

山科 勝嗣 ((一社)東北地域づくり協会山形支所)

専門家として派遣された山形県西川町では7月28日の前線豪雨により観測史上第一位の降水量を記録。一方、最上川本川では最上川水系河川整備計画の対象洪水である羽越豪雨(S42)をも凌ぐ大洪水でしたがダム、遊水地、堤防等が整備促進され堤防決壊等の大災害に至りませんでした。

西川町では平成25年7月の前線豪雨でも甚大な被害を被ったが今回はそれをも凌ぐ降雨により至る所で災害が発生しました。

専門家として助言したのは町道の大規模な法面被災や普通河川の河岸決壊、既設護岸の被災など降雨による浸透水や河川流量の増大に伴う河床洗掘や側方浸食等により被災したものと考えられました。

専門家は地元精通している県OBも含め3名でこれら被災メカニズムをもとに再度災害防止等も踏まえ適切な助言に心掛けました。

町の担当者も度重なる災害復旧で適切な応急工事を実施しており早期復旧に向け真剣な表情で耳を傾けていたのが印象に残りました。

今後も専門家として適切な助言が出来るよう負担法や技術基準等を熟知するよう自己研鑽に努めていきたいと思ひます。



令和2年7月豪雨

山形県西川町への災害復旧技術専門家活動について

吉田 郁夫 (共和コンクリート工業(株)山形支店)

私は、山形県OBとして、2名の国土交通省OBの方(佐藤さん、山科さん)と一緒に派遣させていただきました。県では、平成26年7月豪雨災害時に専門家2名の派遣実績がありますが、県内の市町村としては初めてでした。

今回の活動を通じて、改めて、少人数で災害に対応せざるを得ない町の状況、狭隘な山間地の道路・河川など一連の被災状況と災害復旧制度の必要性を痛感させられました。町(申請者)は、個別の災害箇所に関わることが多いものです。全体的な視点による適切な専門家の技術指導は、非常に有意義であると実感した次第です。特に、現場で災害復旧に関する町職員とのフランクな質疑応答が図られ、同行したコンサルタントも含めて、災害復旧技術への理解を深めることができたと思ひます。

専門家派遣制度は、特に査定官を経験された方の過去の経験や教訓を、県や市町村に噛み砕いて「わかりやすい形」で語り繋ぐ道場のように思ひます。

今後とも、自己研鑽に務め、微力ながら災害支援に尽力できればと考えております。

(2) 西川町担当課長



災害復旧技術専門家派遣制度について

土田 浩行（山形県西川町 建設水道課長）

西川町は出羽三山の主峰「月山」のある町です。令和2年7月26日の夜から断続的に雨が降り続き特に28日の夜半から町内各地で大雨に見舞われ、土砂崩れ等の発生で一時5地区の集落が孤立状態になりました。特に月山山系での被害が大きく、災害の全容を把握するため調査を行いました。災害が広範囲にわたり、町道が崩落している箇所もあり先に進めず、限られた職員では調査が困難になっていました。このような状況でしたので8月1日に TEC-FORCE の派遣を依頼し、小型無人機ドローンを使った調査等を行っていただき被害の全容を把握することが出来ました。

調査結果を基に災害復旧工法で苦慮していたところ、「災害復旧技術専門家派遣制度」により3名の専門家を派遣していただきました。町道と河川の災害現場を調査していただき、災害発生の状況を分析、災害復旧工事の方法、災害査定を受けるうえでのアドバイスをいただきました。現在はアドバイスを参考に災害査定に向けた準備を進めており、一日でも早い復旧に努めていきたいと考えております。

派遣をいただきました全国防災協会の専門家の皆様に心から感謝いたします。誠にありがとうございました。

6. 災害復旧技術専門家派遣フロー



◎手続き

- 1) 被災自治体（都道府県・指定都市）から防災課へ要請する。
※市町村（指定都市を除く）は都道府県を通じて防災課へ要請する。
- 2) 防災課から防災協会へ専門家の派遣を依頼する。

- 3) 防災協会が派遣する専門家を決定。防災課へ連絡する。
- 4) 派遣内容を防災課から要請のあった被災自治体へ通知し、派遣の日程を調整する。
- 5) 派遣された専門家が現地にて復旧方針等の助言を行う。